

# ケッコー使えそうです

## ～生ゴミ1次処理物の飼料利用試験～

環境畜産部 小嶋禎夫

### 研究のねらい

食品のリサイクルが懸案となる中、福祉局東村山老人ホームで排出された生ゴミの1次処理物（加熱して水分調整をしたゴミ）を採卵鶏へ給与し、その飼料としての可能性を検証する。

### 研究の成果

1. 生ゴミの1次処理物を50%混ぜても良く食べます。25%までの混合給与は、生産性に影響が少ないことが分かりました(表1)。
2. 生産コストのダウンが見込め、かつ、食品リサイクル法の趣旨に適った廃棄物の循環が可能となります。
3. 生産卵は、アルギニン（苦味系のアミノ酸）含量が高い傾向を示しました(図1)。



※3.5mmの篩にかけて左の小さい粒を与えた

表1 産卵成績

区 (混合率)	産 卵			飼 料	
	産卵率 (%)	平均卵重 (g)	産卵量 (g/羽・日)	摂取量 (g/羽・日)	効率 (%)
0%	94.9 <sup>A</sup>	56.6 <sup>A</sup>	53.6 <sup>A</sup>	116.6	46.0 <sup>A</sup>
12.5%	95.4 <sup>A</sup>	54.5 <sup>C</sup>	52.0 <sup>A</sup>	118.7	43.8 <sup>a</sup>
25%	96.0 <sup>A</sup>	54.6 <sup>C</sup>	52.3 <sup>A</sup>	116.3	45.0 <sup>A</sup>
50%	81.7 <sup>B</sup>	55.9 <sup>B</sup>	45.7 <sup>B</sup>	117.5	38.9 <sup>Bb</sup>

異符号間に有意差あり, 大文字<0.01, 小文字<0.05  
飼料効率; 食べたエサが卵になる割合

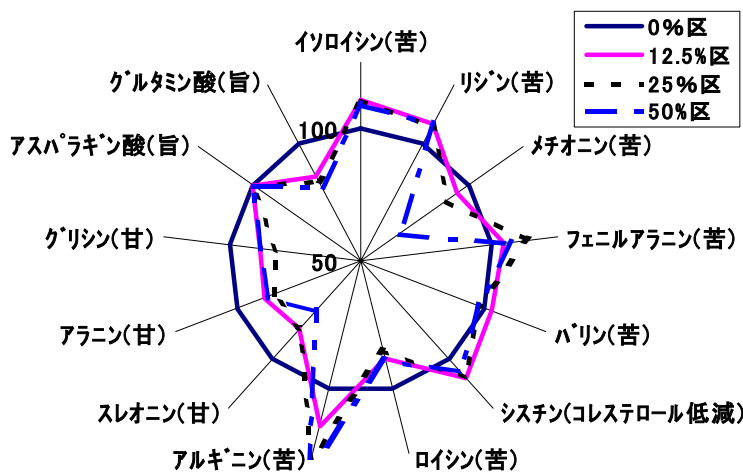


図1 卵黄のアミノ酸(0%区を100とした)

### 今後の予定

1. 苦味の原因は、1次処理物の炭化部分(焦げ)によると考えられるので、加熱処理方法を検討します。

2. 飼料としての安全性と生産卵の食味について検討します。
3. 生ゴミの1次処理物は、直接堆肥化して利用するよりも家畜への給与を経て、その糞尿を堆肥化する方が、エネルギーの有効利用が図れます。採卵鶏への給与による東京発の“究極の食品リサイクル”を目指します。